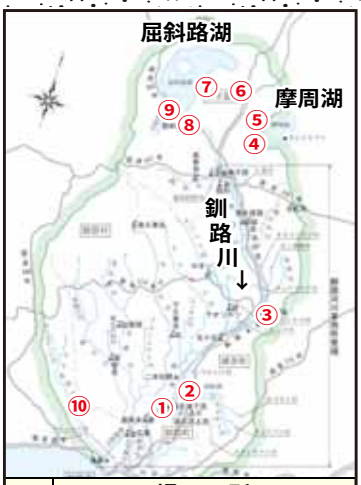
釧路湿原川レンジャー News

2013　Vol.4

第3回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成２５年９月１０日(火)に、２４名が参加して「第３回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。今回は、釧路湿原から釧路川上流部までをバスで巡りながら、釧路短期大学の大西教授に説明していただき、「釧路川を巡る自然地理学の研修」を行いました。バスの中と現地で様々なことを解説していただきましたので、抜粋して紹介します。



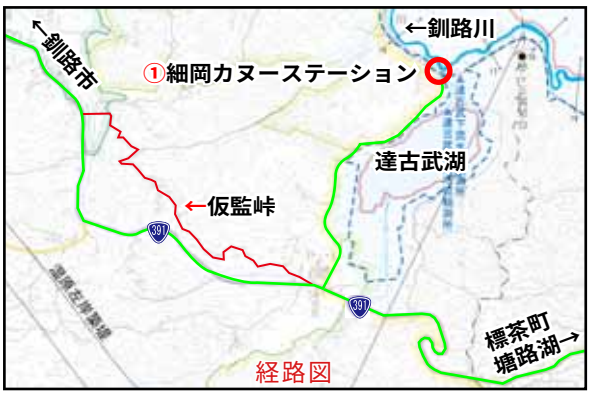
	場　　所
①	細岡カヌーステーション
②	塘路湖
③	標茶河川防災ステーション
④	摩周第一展望台
⑤	摩周第三展望台
⑥	硫黄山
⑦	砂湯
⑧	屈斜路湖
⑨	尾札部川
⑩	北斗展望地

合同庁舎～①細岡カヌーステーション

○仮監峠について
- 標茶の集治監（現在でいう刑務所）の囚人が道路を開削した峠。

○達古武湖について
- アイヌ語で「タプコプ」ちょっと盛り上がった、ぼこぼこしたという意味の海跡湖。
- 釧路川には、塘路湖、達古武湖、シラルトロ湖の海があった時の名残である三つの海跡湖がある。
- 水深が5mより浅いと地理学上は沼で、5m以上が湖。達古武湖は水深が2m位なので地理学上では沼。
- 現在のオートキャンプ場には元々、北海道牧場（元内閣総理大臣　米内 光政が経営）の農場があり、霞ヶ関バターを販売していた。今でもキャンプ場に行くと農場の跡がある。
- キャンプ場になった時に達古武沼から達古武湖へと呼び名を変更した。
- 湖から河川へ流出する箇所（出口）を落とし口という。
- 特定外来生物のウチダザリガニが多く生息している。しかし、生きたまま持って帰ると個人では100万円以下の罰金などの罰則が課せられる。

解説したパネル：達古武湖



経路図

車内で解説する大西教授

●①細岡カヌーステーションにて

- この箇所での川の勾配を計算したら1/8000程度になる。8km進んで1m下がるくらいのとてもゆっくりとした流れ。弟子屈は流れが急で、標茶あたりから緩やかになり塘路、シラルトロから更に緩やかになる。
- 航空写真で見るとイソツツジやヤチヤナギなどが生息している箇所は色が変わっており、見ただけで高層湿原だとわかる。

細岡カヌーステーションでの解説

①細岡カヌーステーション～②塘路湖

○塘路について
- 塘路湖は釧路湿原で最大の海跡湖。
- 釧路川とアレキナイ川の合流点である二股に船着き場があった。
- 塘路には明治25年に香川県から貫誠社（団長　高岡縫）が入植。塘路の湖畔に小屋を造り、サトウキビを栽培しようとしたが天候が向かず失敗。その後、高岡縫と母親だけが塘路に残り、最期は紫雲台に故郷から持ってきて使わなかった石臼でお墓を建てた。お墓は故郷を向く事が多いが、高岡家のお墓は塘路湖を向いている。

●②塘路湖にて

・塘路湖に張る氷の厚さは40～50cmで、御神渡りは高さが1m近くになり、屈斜路湖では1.5m位の高さになる。また、釧路市の春採湖にも３年に1度くらい20～30cmの御神渡りができるが、近年、長野県の諏訪湖には、気温の影響で御神渡りができにくい。

ヒシの実

・塘路湖に生息する変わった植物

（1）エゾノミズタデ

外国では、水陸両用という学名がついており、陸上でも水中でも生活ができる特殊な植物。本州では危惧種になって保護されているのが、塘路湖には多く生息している。

（2）ヒシ（ベカンベ）

成熟した実は秋に水底に沈み、翌年に芽を出す。しかし、これが増え過ぎるとこのまま全部腐って下に溜まるので、問題になる。
本州にも生息しており、成熟して黒くなった実を半分にして食べる。
また、中国では粉にして食べるらしい。

塘路湖畔での解説

解説したパネル：御神渡り

解説したパネル：塘路湖と釧路川

経路図

②塘路湖～③標茶河川防災ステーション

○ハンノキ林について

・ハンノキは湿地に適応している植物で、温根内のハンノキ林は全国的に有名である。
・ヤナギとハンノキの葉には違いがあり、ハンノキは葉に養分を溜めた上で落葉する。しかし、ヤナギは葉の養分を自身に再吸収し、蓄えて夏の間に出す芽などに使うので、落ち葉に養分が無い。
・釧路湿原の木道周辺にはハンノキが生息しているので、木道に落ちた葉の栄養分をねらった菌によって、７年くらいで腐る事になる。

○シラルトロ沼について

・達古武湖と同様に湖がどんどん浅くなっており、シラルトロ沼と表現されている。
・特徴としては周辺で塩水泉の温泉が出る。

○標茶町について

・標茶町は昔、熊牛という名だったが山奥の熊が出るような所だと連想されるので、標茶に改名した。
・面積は日本全国の町村（市は含まない）では6番目に広く、釧路湿原の約6割を占める。
・標茶高校は高校として日本一の敷地面積（250ヘクタールを超える）で、大学を含めた単一キャンパスの広さでも3番目。
・標茶町には、町の天然記念物でもあるベニバナヤマシャクヤクが生息している。

●③標茶河川防災ステーションにて

標茶河川防災ステーションでは、大西教授に代わって釧路河川事務所の高貝事業専門官が施設の説明をしました。

- 標茶河川防災ステーションは、北海道開発局と標茶町によって平成17年に完成した施設。
- 主な役割は災害対策で、特に洪水を意識した施設になっている。
- 洪水時に水防活動をするために必要な資材（コンクリートブロックや土のうなど）を保管し、土のうなどを作る作業場としての機能もある施設。
- 施設のすぐ前には河川敷地もあり、敷地が広いので、水防訓練などにも利用できる。
- 排水ポンプ車や照明車といった災害対策車両を2台配備。
- ヘリポートがあり、ドクターヘリの発着陸場所になっている。
- 周辺に公園施設もあり、この一帯が水防公園となっている。
- 平常時には一般の方が利用できる施設で、1Fに釧路川に関するパネルが展示されており、トイレも利用できる。（冬期間は閉鎖）

経路図

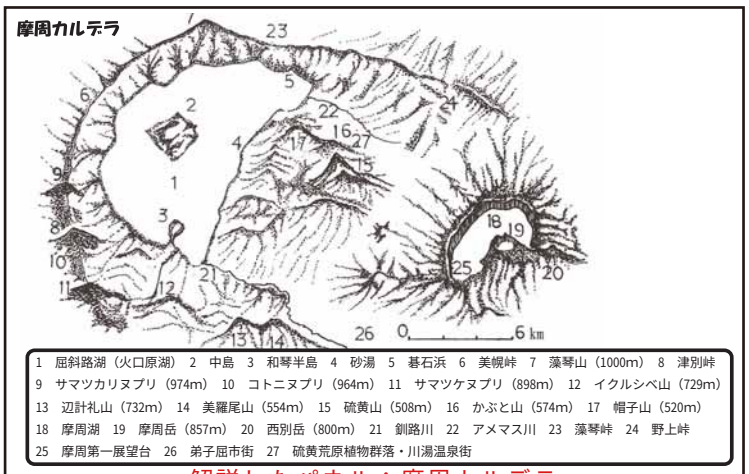
防災ステーションでの解説

敷地内に保管している資材

③河川防災ステーション～④摩周第一、⑤第三展望台

○弟子屈町について

- 日本一のカルデラのある火山の町
- 摩周湖は非常に深く、湖に浮かぶカムイシュ島（中島）は頂上部が少し出ているだけで、都庁と同じくらいの高さ。
- 摩周湖周辺はダケカンバが優占している。ダケカンバは「化ける木」と言われており、環境に応じて枯れたようになったり、樹高が30m以上になったりと変化する。
- 第一展望台から第三展望台に向かう道路両脇のダケカンバは枯れたように弱々しくなっており、環境に応じて化けている。本州ではアルプスの2000m級の高さにも生息している。



解説したパネル：摩周カルデラ

経路図

●④摩周第一展望台にて

- 摩周湖は約7千年前（縄文時代）にできた。
- 摩周湖は河川の流出入がないので、水たまりのカルデラ。
- 第一展望台からの眺望は、カムイシュ島が俯角10度（見下ろす角度）なので、人間の目にとって、とても見やすい位置にある。

第一展望台からの眺望

展望台での昼食

●⑤摩周第三展望台にて

・第三展望台からの眺望は、俯角40度で恐怖心を感じる。
・屈斜路湖は日本で6番目の大きさの湖で、カルデラ湖では日本最大。（世界で2番目）
・しかし、屈斜路湖と比べると水の量は、摩周湖の方が多い（面積は屈斜路湖の方が大きいが、水深が浅いため）
・展望台への道端にはチシマフウロやヒカゲノカズラなど非常に珍しい植物がある。

展望台から見下ろした眺め

摩周湖をバックに記念撮影

⑤摩周第三展望台～⑥硫黄山

・摩周第三展望台から硫黄山に向かう途中は、周辺に原生林がある。
・原生林はトドマツが主体で、その他にエゾマツ、アカエゾマツや広葉樹も生息している。
・トドマツには、森林浴に効果的な成分が多く含まれる。
・道端に生息している特定外来生物の「オオハンゴンソウ」は、道央から北見を回って美幌峠を通り、この辺りに侵入してきている。そして、ここから釧路川を伝わって種子が流れて侵入している。ここが釧路管内の入り口となり、流域に広がっている。

●⑥硫黄山にて

・硫黄山はアトサヌプリと言い、アイヌ語で「裸の山」という意味。（アトサ：裸の、ヌプリ：山）
・硫黄山の岩石はガラス質分を多く含んだ粘りけのある成分で、周囲にある他の山と少し違う。
・土壌が酸性化し、酸性に強いハイマツやイソツツジが生息している。
・硫黄山周辺では赤い穂のススキがみられる。これは、硫黄のガスのせいだと言われている。
・イソツツジが悪環境で育っている理由として、周辺で生息しているコツブタケがある。
・コツブタケは焼きおにぎりのような形で、上から踏むと胞子を出す。酸性土壌で生えるキノコで、他の植物の根の回りを菌糸が取り巻き、養分の伝達や水分の確保をしている。よって、ここは、菌類と植物の共生の場である。

硫黄山に生息しているハイマツ

赤い穂のススキ

⑥硫黄山～⑦砂湯

・アイヌの人は温泉を３段階に分けている。
　アイヌ語で「ヌ」は熱くて、そのまま入れない。川湯温泉がこれにあたる。
　「クスリ」は温かくて、そのまま入れる泉のこと。
　「ユー」は、ぬるくて、そのまま入れない。砂湯がこれにあたる。
・川湯温泉から砂湯、屈斜路湖の沿岸にかけて温泉が広がっている。

砂　湯

⑦砂湯～⑧屈斜路湖～⑨尾札部川

・屈斜路湖の落とし口（出口）は、釧路川の見かけ上の出発点。
　この場所の標高は120mで河口までの距離が120ｋｍ。
・屈斜路湖に流入する河川の中で一番長い尾札部川が、釧路川の源流と言われている。
・和琴半島の先端部には今でも噴火しているオヤコツと言う噴火口がある。
・弟子屈上流のササは釧路のミヤコザサとは異なり、クマザサの仲間。ミヤコザサは背丈が低くて枝分かれしないが、クマザサは枝分かれする。
・塘路の郷土博物館の資料の中に摩周湖（弟子屈町）でササの植生が変化（ミヤコザサ～クマザサ）していると記載されている。

尾札部川

⑨尾札部川～⑩北斗展望地

経路図

- 釧路湿原は、約６千年前の氷期が終わって暖かくなった海の水が入ってきた後にできた湿原で歴史が浅い。
- 釧路湿原には、約２千種類の生物がいる。2万年前の氷期の影響を受けた生物と約6千年前の生物が入り交じっているので、種類が多い。（外国の湿原は4～600種類なので、約3倍）
- 釧路湿原では温暖化などによって影響を受けており、イネ科の植物が増えている。イネ科の植物が増えるためにミツガシワなど氷期の依存種が減っている。
- 一年生草本（発芽して一年以内に種子を残し枯死する草）であるキツリフネやツリフネソウは「おこりんぼう」とも言われており、果実に触れただけで種子が弾け飛び散布する。
- ししゃもは、新釧路川での漁獲量が多い。産卵は、新釧路川を遡上し、子魚が浸透圧で死なないようにするため、約２４～３０時間かけて海水に浸れるような所で行う。

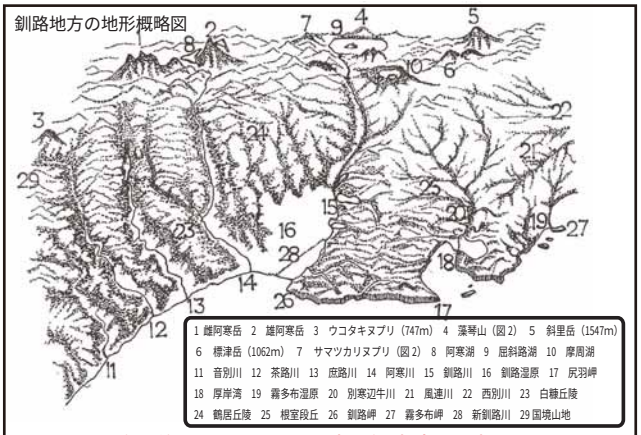
ツリフネソウ（おこりんぼう）

●⑩北斗展望地にて

今回の学習会の最後に釧路湿原の解説をしていただきました。

- 日本で28番目の国立公園。東西に約10km、南北に約35kmで面積は約2万ヘクタール。東京の山手線がすっぽり入る大きさ。
- 釧路川水系の流域面積は、2500km2
- ウメバチソウは湿原で最後に咲く花のひとつ。1つの仮雄しべが17本くらいで、先端がアメ玉のように丸い。
- 樹木の根はそんなに深く張らず、アカエゾマツやトドマツなどの松の木の場合も、深さが1m以内。
- 湿原のハンノキは根が張れないので、呼吸がしやすいように互いに根を絡め合って根を少し持ち上げている。樹高は10m位にしかならない。
- 10m位のハンノキには葉が8万枚くらい付いている。
- ハンノキの根には、マメ科と同じように根粒があり、バクテリアにタンパク質を合成させているので、土壌に養分が少なくても成長できる。
- 展望台から見ると、真ん中にサバンナのように見えるのがハンノキ。
- 自然によるハンノキの広がりは、コントロールして進み方を遅らせることはできるが、人間の力で自然の勢威を食い止めることはなかなか難しいと考えている。

展望台から望む釧路湿原



解説したパネル：釧路地方の地形

観察活動の報告

釧路湿原川レンジャーの皆さんから寄せられた観察報告を紹介します。今回も不法投棄や河川管理施設の損傷など様々な報告がありました。今後も皆さんからの報告をお待ちしております。

報告日	報　告　内　容	対　　応
H25.8.28	学習会の案内に関する要望	貴重な情報として取り扱う
H25.9.8	動植物報告：ヤマセミなど	貴重な環境情報として取り扱う
H25.9.14	ゴミの不法投棄回収･処理	貴重な情報として取り扱う
H25.9.28	ゴミの不法投棄	釧路河川事務所で回収
H25.9.28	雨水による堤防斜面の浸食	今後の経過観察後に補修予定
H25.9.28	新釧路川の水位が高い	貴重な情報として取り扱う
H25.11.2	鹿による斜面の損傷	釧路河川事務所で補修予定
H25.11.2	新釧路川の水位が高い	貴重な情報として取り扱う

斜面の損傷（エゾシカによる掘削）

国土交通省
あしたを創る　北の知恵
北海道開発局
釧路開発建設部治水課
〒085-8551 釧路市幸町10丁目３番地
釧路湿原川レンジャー事務局
0120-8946-42（やっぱりくしろしつげん）
http//www.ks.hkd.mlit.go.jp/